総合特別区域評価・調査検討会における評価結果（平成24年度）の概要

２．分野等別状況　（２）地域活性化総合特区　⑥まちづくり分野（3/3）

	評価区分（*1）	総合評価（Ⅰと Ⅱの平均値にⅢを加味）	Ⅰ目標に向けた取組の進捗に関する評価	Ⅱ支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ.現地調査時の指摘事項及び対応状況　等（*2）	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
柏の葉キャンパス「公民学連携による自律した都市経営」特区（柏市）	正	C 3.3	B 3.5 進捗度 ・地域活動の参加者の増加 100% ・通所リハビリ事業所のサービス実施件数 89% 等	B 3.5 規制の特例等 ・訪問リハビリテーション事業所整備推進事業　等 地域独自の取組 ・柏市指定居宅サービス等事業人員設備運営基準等条例改正 等	－0.25	・民間事業者による地域開発の一環としての「地域エネルギー」の取組（低炭素コンパクトシティと災害時スマートエネルギーシステムの構築）は計画どおり進捗している。他方、住民・地域企業の参加が必要な「都市経営」や規制緩和（通所リハと訪問リハのリハビリテーション事業所の開設要件の緩和　等）を手段とする「地域の健康・介護」の取組は計画どおり進んでいない部分がある（※1）。今後自治体が住民、地域企業、医療・福祉関係者等をコーディネートする機能を強化していく必要がある。 ・評価指標の選定が全体に不明確かつ不明朗であり、多くの課題（評価項目の設定の仕方、今後の改善策に関する不十分な記述等）がある（※2）。 ※1：「都市経営」の取組については、エンジェル税制の制度改正等について、調整が進んでおらず、当初の見込みより大幅に遅れている。 「地域の健康・介護」の取組については、トータルヘルスケアステーションは通所リハと訪問リハを統合した施設として構想されていたが、通所リハの規制緩和が成されていないため、修正を余儀なくされている。 ※2：（例１）評価指標（５）「駅前148街区複合開発におけるCO_2排出原単位の削減」では、中間段階でどれだけCO_2削減達成のための準備が実際に進められているか（施設の整備内容）が評価できる評価指標を設定することが必要。 （例２）評価指標（２）「地域の自律的な都市経営の活動費（自主財源）の増加」について、特区計画の目標達成のために整備する組織の目的、性格、構成、機能等を改めて明確にすることが必要。

◆評価書はこちら　　◆評価結果はこちら

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。　*2)「Ⅲ」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。